それに比べると巴里では甚だ容易に此等の資料を見ることが出來た。ペリオ氏が既に一應の調査を了り、大部分の目錄をも作つてビブリオテーク・ナショナールに納めてあるのだから、閲覽者はそれを便りに希望の文書を見ることが出來る。自分は閲覽の傍この目錄を寫し取り、歸朝後その複製を作つて同學の士に頒つた。これが日本に於て巴里に在る敦煌漢文書の名目を知り得るに至つた初めである。別にペ氏の手許にはなほ何百卷かの調査未了の卷子があつたが、それも同氏が惜氣もなく貸與して呉れたので、余はこの中の數十卷を寓居で自から寫眞した。ペ氏と同編の形で出刊した敦煌遺書中に收めた慧超の往五天竺國傳とか漢番對音千字文の類の如きはその一部分で、もしこれより以前に誰かゞ這般の面倒と費用とを厭はなかつたなら、故藤田劒峯博士の慧超傳箋證の如きも、今一層光輝ある研究を發表し得たに違ない。

巴里では別に華夷譯語八卷をも、自分で寫眞した。一體この書は周知の如く諸種の傳寫があり、その系統甚だ不明で、解題學者を惱ますものゝ一つであるが、古くから我が國に傳はつて居つたものは、紅葉山文庫舊藏本、阿波文庫所藏本を始め、その他の諸本何れも漢字だけで書かれたものでそれぞれの國字を併記したものはない。近く內藤博士や東洋文庫などに所藏せられることになつたものは後の種類に屬するが、それ等を除けば我が國に於ける此の書の襲藏は甚だ貧弱の狀態であつたといはねばならぬ。余は倫敦でも大英博物館本や東洋學院本について、數箇國の譯語を筆寫したが、巴里では亞細亞協會所藏本を借出して、その全部を寫眞した。無論漢字とそれ〴〵の國字とを併記した種類である。昭和三年には更にこれを補ふに足る性質の同書を、北京の柯劭忞博士の許で見出したので、これをも借りて寫眞本としたから、今は我が國にも幾種類かの華夷譯語が備はつた譯である。この巴里に於け